

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平 11-130031

(43) 公開日 平成 11 年 (1999) 5 月 18 日

(51) Int. Cl.⁶
B65D 1/02
21/08

識別記号 庁内整理番号
F I
B65D 1/02
21/08

技術表示箇所
B

審査請求 未請求 請求項の数 3 FD (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平 9-312622
(22) 出願日 平成 9 年 (1997) 10 月 28 日

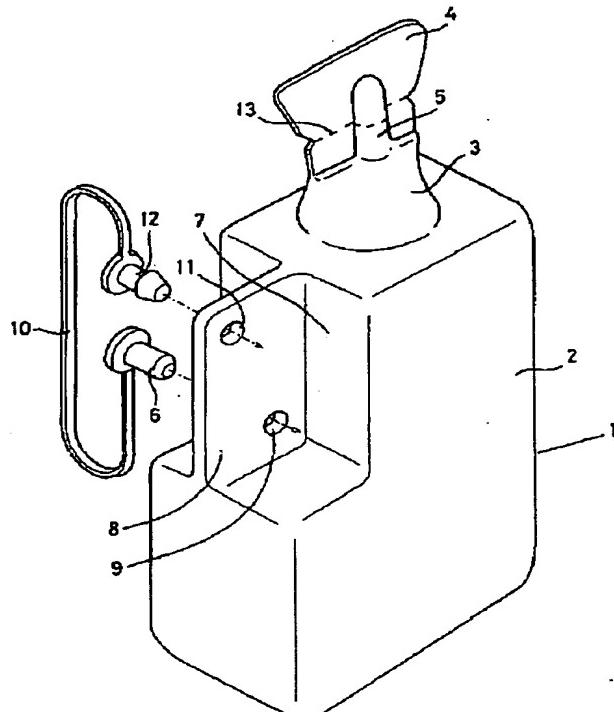
(71) 出願人 000006909
株式会社吉野工業所
東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号
(72) 発明者 早川 茂
東京都江東区大島 3 の 2 の 6 株式会社吉
野工業所内
(72) 発明者 飯塚 茂雄
東京都江東区大島 3 の 2 の 6 株式会社吉
野工業所内
(74) 代理人 弁理士 今岡 良夫

(54) 【発明の名称】圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器

(57) 【要約】

【課題】従来の袋容器と同様に圧潰廃棄を容易にするとともに、従来の袋容器の問題点、すなわち、内容物の充填が容易でなく、充填速度が甚だ遅い。起立させることが困難であり、起立タイプのものであっても、内容物が少なくなるにつれ倒れ易くなる。持ち難く、注ぎ難く、漏らし易い。残りの内容物を保存する場合、倒れて内容物が漏出し、周辺を汚す。殊に、口部を切り開く詰め替え容器では、漏れ防止はほとんど不可能である。見映えが悪い。等々を解決しようとするものである。

【解決手段】プロー成形により胴 2 の上端に比較的大きな筒状の充填口 3 を有するボトル形袋容器体 1 を設け、内容物を充填したその充填口 3 を封止 4 して、該封止に伴い切断開口可能に閉口した比較的小さな注出口 5 を二次的に形成し、また、上記袋容器体 1 には切断開口した注出口 5 へと着脱自在に嵌合させる栓体 6 を付帯装備させて成る。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 プロー成形により胴 2 の上端に比較的大きな筒状の充填口 3 を有するボトル形で薄肉の容器体 1 を形成し、内容物を充填したその充填口 3 を封止 4 して、該封止に伴い切断開口可能に閉口した比較的小さな注出口 5 を二次的に形成し、また、上記容器体 1 には切断開口した注出口 5 へと着脱自在に嵌合させる栓体 6 を付帯装備させたことを特徴とする圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器。

【請求項 2】 上記容器体 1 の胴 2 の適所に栓体収納凹部 7 を形成するとともに、該栓体収納凹部内に栓体支持片 8 を配し、かつ、該栓体支持片に栓体支持孔 9 を穿設して、該栓体支持孔に上記栓体 6 を着脱自在に嵌合支持させた請求項 1 記載の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器。

【請求項 3】 上記栓体支持片 8 の適所に細帯 10 の基端を連繋させ、該細帯の先端に上記栓体 6 を連繋させた請求項 2 記載の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器に関する。

【0002】

【従来の技術】 近年、用済み後の容器類は、分別収拾されて再利用に供されているが、処理に限度もあり、未だ多くのものが圧潰されることもなくそのままの姿で廃棄されている現状であり、これを如何にするかが重大な問題となっている。かかる容器類のゴミ問題に鑑み、最近では、単なる容器として或いは詰め替え容器としていわゆるパウチと称される袋容器が出回るようになってきている。この種の袋容器は、廃棄時に、折り畳み、圧潰等によりかなり小さくすることができて、量を格段に少くすることができる点で優れている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、その反面、この種の袋容器には保形性がなく、形が定まり難いくねくねしたものであるために、使用上、取り扱い上或いは外観上、次のような多くの欠点も合わせて有している。

- ① 内容物の充填が容易でなく、充填速度が甚だ遅い。
- ② 起立させることが困難であり、起立タイプのものであっても、内容物が少なくなるにつれ倒れ易くなる。
- ③ 把持手段を有しないこともあって持ち難く、注出方向が定まり難いため注ぎ難く、また、取り扱いが容易でなく、漏らし易い。
- ④ 内容物を途中まで注出して残量を保存するような場合、倒れて内容物が漏出し、周辺を汚すことが多い。殊に、口部を切り聞くような詰め替え容器では、十分に開口できないため、漏れ防止はほとんど不可能である。
- ⑤ 見映えが悪い。

そこで、本発明は、圧潰廃棄を容易にするとともに、ボトルの機能をも十分發揮できるようにして、それらの問題点を全て解決しようとするものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】 上記目的達成のため、請求項 1 の発明は、プロー成形により胴 2 の上端に比較的大きな筒状の充填口 3 を有するボトル形で薄肉の容器体 1 を形成し、内容物を充填したその充填口 3 を封止 4 して、該封止に伴い切断開口可能に閉口した比較的小さな注出口 5 を二次的に形成し、また、上記容器体 1 には切断開口した注出口 5 へと着脱自在に嵌合させる栓体 6 を付帯装備させて成る。

【0005】 請求項 2 の発明は、請求項 1 記載の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器にあって、上記容器体 1 の胴 2 の適所に栓体収納凹部 7 を形成するとともに、該栓体収納凹部内に栓体支持片 8 を配し、かつ、該栓体支持片に栓体支持孔 9 を穿設して、該栓体支持孔に上記栓体 6 を着脱自在に嵌合支持させて成る。

【0006】 請求項 3 の発明は、請求項 2 記載の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器にあって、上記栓体支持片 8 の適所に細帯 10 の基端を連繋させ、該細帯の先端に上記栓体 6 を連繋させて成る。

【0007】

【発明の実施の形態】

その 1. 図 1 乃至図 3 は、請求項 1 乃至請求項 3 の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器の発明に係る一の実施の形態を示している。図において、1 は、ポリオレフィン系合成樹脂等でプロー成形したボトル形で薄肉の容器体、2 は、該容器体の箱状の胴、3 は、該胴の上端から突設した比較的大きな円筒状の充填口（図 3）で、該充填口は、内容物の充填後に、加熱融着手段、超音波溶着手段等により、両側から押し潰して融着封止 4 する（図 1）ものである。5 は、該封止 4 に伴いその充填口 3 にて二次的に形成した切断開口可能な比較的小さな円筒状の注出口、6 は、切断開口した注出口 5 へと着脱自在に嵌合させるよう容器体 1 に付帯装備させた栓体である。図 1 において、13 の点線は、注出口 5 を切断開口させるための切断部を示しており、開口させるときは該切断部を鋏等で切断すればよい。なお、該切断部 13 をひねって破断させる薄肉破断線等にしてもよい。

【0008】 容器体 1 は、後面にて胴 2 の上部に凹段状の栓体収納凹部 7 を形成するとともに、該栓体収納凹部内中央に栓体支持片 8 を立設し、該栓体支持片の下部に栓体支持孔 9 を穿設して、該栓体支持孔に上記栓体 6 を着脱自在に嵌合支持させており、また、その栓体支持片 8 の上部に細帯連繋用の透孔 11 を穿設している。上述のプロー成形による容器体 1 の肉厚は 1 mm 以下の薄肉でよいが、該容器体 1 には、自体で自然的に形態を維持できる程度に適度な剛性を保有させる。

【0009】 細帯 10 は、基端に突子 12 を、先端に栓体 6

を連設して、容器体1と同じ合成樹脂による射出成形で一体成形しており、その突子12を上記透孔11へ嵌合させることで、基端にて栓体支持片8へと連繋させる。なお、この連繋は、注出口5の切断開口の前でも後でもよい。

【0010】而して、内容物の充填の際は、図3に示す充填口3の開口状態において、ボトルと同様にして充填すればよい。充填後は、図1に示すように、その充填口3を加熱融着手段、超音波溶着手段等により両側から押し潰して融着封止4し、この際、充填口3にて切断開口可能に開口した注出口5を二次的に形成させる。

【0011】次に、内容物を注出する際には、注出口5を切断部13で切断して開口させ、該注出口から注出する。この際、胴2を圧搾するとよい。注出後に内容物が残り、これを保存するときは、その容器体1をボトルと同様に起立させ、栓体支持孔9から栓体6を取り外して、図2に示すように、注出口5へと嵌合させ、保存、保管する。以後の注出には、その都度、栓体6を引き抜いて注出口5から同様に注出すればよい。引き抜いた栓体6は、細帯10を介して容器体1に保持される。

【0012】その2、図4は、請求項1、請求項2の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器の発明に係る他の一の実施の形態を示している。この場合は、図1乃至図3のものにおいて、栓体6が単体をなし、細帯10及び突子12を連ねていない。したがって、栓体支持片8に該突子を嵌着させる透孔11も有していない。その他は、図1乃至図3の場合と同じである。

【0013】

【発明の効果】請求項1、請求項2、請求項3の発明によれば、既述構成であるから、以下の効果を奏する。

(1) 容器体1が胴2の上端に比較的大きな筒状の充填口3を有するボトル形のものであり、しかも、ブロー成形において適度に剛性を持たせることができるから、容器体1にはボトルと同様にして容易に内容物を充填することができて、高速度に充填でき、充填後の充填口3の封止4も押し潰して融着(シール)させることにより簡単かつ迅速に行える。

(2) ボトル形の容器体1であり、ブロー成形において適度に剛性を持たせることができると、適確に起立させることができて、安定に保存、保管でき、しかも、内容物の充填後は、充填口3の封止により完全な密閉状態で漏れなく保存、保管できる。

(3) 内容物充填後の充填口3の封止4において、その充填口3により切断開口可能に開口した比較的小さな注出口5を二次的に形成しているから、内容物を注出する際には、注出口5を極めて簡単に切断開口させることができ、容易に注出できる。

(4) ボトル形の容器体1であり、ブロー成形において適度に剛性を持たせることができて、適確に起立させることができると、内容物を途中まで注出して残量を保存

するような場合でも、転倒等することなく保存、保管でき、しかも、容器体1には切断開口した注出口5へと着脱自在に嵌合させる栓体6を付帯装備させているから、切断開口後の注出口5を栓体6で簡単に閉口させることができ、したがって、内容物が不意に漏出するようなことも、不意の漏出で周辺を汚すようなこともない。

10 (5) 容器体1がボトル形であり、ブロー成形において適度に剛性を持たせることができると、持ち易くかつ取り扱い易くでき、注出の際に不意の屈曲等により注出方向が変動することや該変動で注ぎ難くなることを防止することができ、漏らすことを少なくできる。

(6) ボトルと同様の外観を呈するので、見映えがよい。

(7) ボトル形ではあっても薄肉の容器体であり、しかも、キャップ等を有しないから、廃棄の際には、簡単に圧潰、折り畳み等できて、かなり小さくすることができ、その量を格段に少なくすることができる。また、キャップ等を分別する必要もなく、そのための手間もかからない。

20 (8) そして、容器体1自体は、その構造上、ブロー成形等で簡単に一体成形できて、極めて容易に製作でき、安価に提供できる。

【0014】加えて、請求項2の発明によれば、容器体1の胴2の適所に栓体収納凹部7を形成し、該栓体収納凹部内に栓体支持片8を配し、該栓体支持片に栓体支持孔9を穿設して、該栓体支持孔に栓体6を着脱自在に嵌合支持させているので、切断開口させた注出口5を閉じるその栓体6は栓体収納凹部7内から外へ突出させずに簡単にかつ邪魔になることなく付帯装備させることができ、その着脱、取り扱いが容易である。そして、栓体支持片8を把持乃至つまみに利用することもでき便利である。

30 【0015】また、請求項3の発明によれば、栓体支持片8の適所に細帯10の基端を連繋させ、該細帯の先端にその栓体6を連繋させているので、引き抜いた栓体6は常に懸吊保持させることができ、使用、取り扱いに頗る便利重宝である。そして、この場合も栓体支持片8を把持乃至つまみに利用することもでき便利である。

【図面の簡単な説明】

【図1】 請求項1乃至請求項3の発明に係る一の実施の形態を示す斜視図である。

【図2】 同実施の形態における注出口を切断開口させた後の要部の斜視図である。

【図3】 同実施の形態における充填口封止前の要部の斜視図である。

【図4】 請求項1、請求項2の発明に係る他の一の実施の形態を示す要部の斜視図である。

【符号の説明】

1 … 容器体	2 … 胴
3 … 充填口	4 … 封止
5 … 注出口	6 … 栓体
50	

5

6

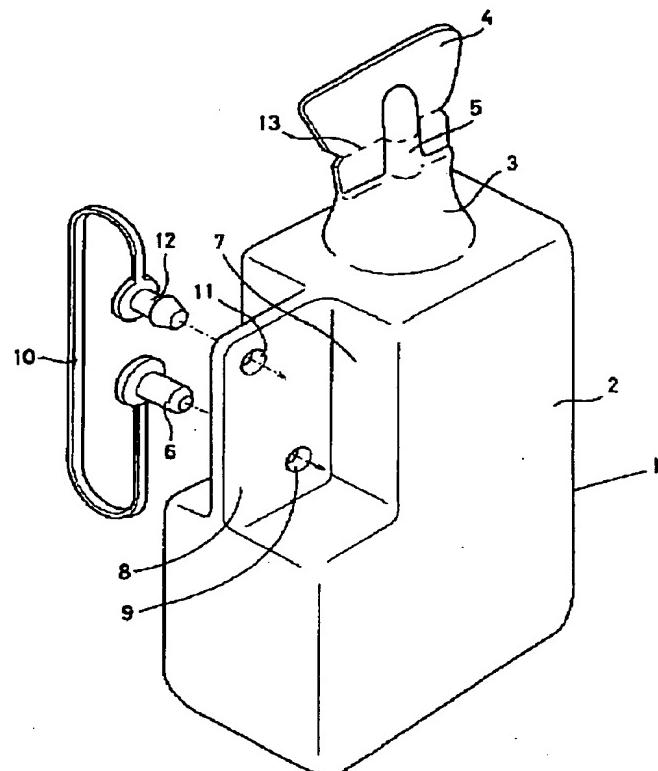
7 … 桿体収納凹部
9 … 桿体支持孔

8 … 桿体支持片
10 … 細帯

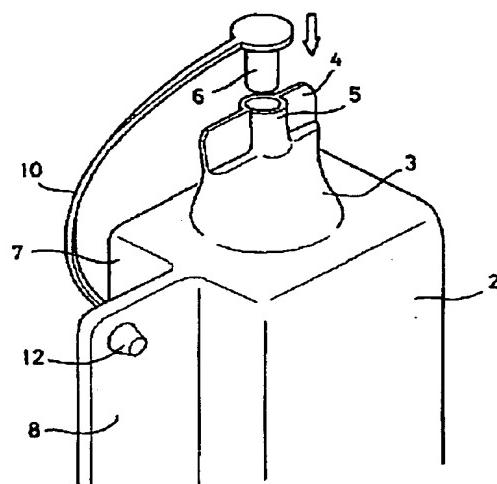
11 … 透孔
13 … 切断部

12 … 突子

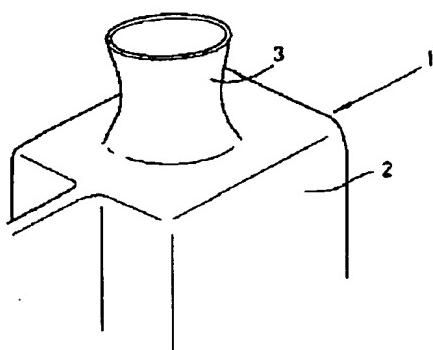
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

